

# ここが問題！リニア新幹線

第116号 発行 2025年4月15日

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 linear-tokyokanagawa @googlegroups.com

## 川崎市内のリニアトンネル工事は不安よそに住宅街の下を掘削中最中、緊急集会「川崎からリニア大深度トンネル工事の危険性を問う」開催 ～4月6日麻生市民館、52人参加、工事中止の声相次ぐ

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会は4月6日午後、麻生区の麻生市民館で『緊急集会：川崎からリニア大深度トンネル工事の危険性を問う』を開きました。今回は、東百合ヶ丘非常口から約550メートルまで進められているリニア大深度トンネルルートの沿線住民に参加してもらうよう準備をしました。リニア麻生の会の地域宣伝の効果もあって、集会には52名が参加し会場内はいっぱいとなりました。



ジャーナリスト樫田秀樹氏が「リニア工事の深刻な事態」と題して講演

はじめに東京・神奈川連絡会の矢沢美也共同代表が挨拶しました。

矢沢氏は「町田市の小野路工区では家の敷地に酸欠気泡が発生し、岐阜県瑞浪市では地下水が枯れ地盤沈下が起きています。リニア工事で何が問題なのか、今日は皆さんに川崎市内の現状と沿線各地でどのようなことが起きているかを知るために集会を開くとにしました。

最初に南アルプスのトンネル工事

が行われる状況について、登山愛好家の服部隆さんの蛇抜け沢踏破のビデオを見ていただき、次に沿線のリニア工事の深刻な事態を取材しているフリージャーナリスト・樫田秀樹さんの報告、そして川崎市内の大深度トンネル工事について東京・神奈川連絡会の天野捷一さんから説明してもらいます。その後参加の皆さんからのご意見やご質問を受けたいと思います」と述べました。

## 自然はリニア工事によって深刻な影響を受ける～南アルプス蛇抜け沢踏破行ビデオ

静岡県在住の服部隆さんは南アルプスをこよなく愛する登山家であり、優れた知識と技術を備えた専門家で、昨年夏5人でリニア工事に関係する南アルプスの蛇抜け沢を下流から源流部まで踏破しました。急峻な沢道をぬけ、地殻の断層の様子や地下水の流出口などを撮影しながら、その地に南アルプストンネルの工事が行われれば、地下水の流失や枯渇、山体崩壊などの影響が出るおそれあると、服部さんの報告ビデオで警告しています。



急流の南アルプス蛇抜け沢を登る服部隆さんら

## 『リニア工事の深刻な現状』～フリージャーナリスト樫田秀樹さん

### これから完成まで11年・・最大の遅れは相模原市のリニア関東車両基地工事

JR 東海は品川・名古屋間の開業は2027年としていましたが静岡県知事が工事を認めなったことを理由にして2034年以降に開業を伸ばすことを表明しました。静岡県の方針を開業延長の理由にしていますが、沿線各地でリニア工事は進んでいません。私の取材では最大の工事遅れは相模原市に予定しているリニア関東車両基地の建設です。この建設には工期11年ということですが未着工です。リニアルートと施設の建設は2025年までに完成という当初計画でしたが、2038年以降に開業というのが現在の見通しです。トンネル工事の進捗率は12.59%にとどまっています。さらに、工事が行われているところでも異常な事態が起きています。岐阜県瑞浪市大湫町では地下130mの日吉トンネル工事が原因で昨年5月、町の14の水源の水が枯れました。三百年枯れなかった「天王様の井戸」は完全に干上がりました。渇水と同時に地盤沈下が始まりました。地域では1か月に1センチで地盤が沈下し、一部では今や最大10センチも沈下しています。

トンネルを掘る場合は本来なら事前に先進坑を掘り、地盤強化のための薬液注入を行う計画でしたが、そのような対策を何もしていなかったことが国会審議で明らかにされました。トンネル工事によるこのような事態は2020年10月に起きた東京外環道トンネル工事の事故で十分発生が予想されていたはずです。外環道事故では数十軒が移転を余儀なくされました。検討委員会は「現場は特殊な地盤であり、NEXCO 東日本の施工管理ミスで起きた」と結論づけ、その後、JR 東海は都市圏のリニア大深度工事についてこの結論を踏襲し、リニアルートには特殊地盤は無いと決めつけ、工事管理をしっかりやるのでご安心して下さいと住民説明会で説明しました。

ところが、昨年8月に東京・品川区の目黒川に気泡が発生、11月のJR 東海の公表で気泡の酸素濃度は4%だったことがわかりました。通常の空気の酸素濃度は21%ですから、明らかに酸欠気泡であり、家屋内にこの酸欠空気が充満すれば命が失われると住民は怖れました。しかしJR 東海は「工事との関連は解明できなかった」として、原因調査もやらず、いま本工事の準備を進めています。そして、昨年10月に、東京・町田市の小野路工区では恐ろしい事態が起きました。調査掘進のさ中に住宅地の敷地に気泡と地下水が噴き出しました。気泡が発生したのは小野路非常口に近いところです。住民からの連絡でリニア町田の会が現場に行き気泡を採取し分析したところ、酸素濃度はなんと1%でした。外環道も品川区の酸欠気泡は川面でしたが、町田の場合は市民が生活する場所に発生したことが極めて重大です。しかし、JR 東海は詳しい調査もせずに「気泡発生箇所の住民が了解した」と勝手に解釈してトンネル工事を再開しました。町田の気泡発生の近くでは数か所で道路が亀裂し、その規模が拡大していることも私の取材で明らかになっています。

最近では、愛知県春日井市明知町のリニアトンネルルート周辺で5か所の井戸や庭池が枯れる事態も起きています。JR 東海のやり方は事態を直視せず、住民の理解を得ようとしているのですが、自治体の無責任さも問題です。大湫町の事態について瑞浪市の水野市長は、「リニアは国の事業であり市の案件ではない」として、「元の状態にしてもらわないと困る」と言いながら、JR 東海と直接交渉をしていません。飯田市のリニア長野新駅建設現場周辺では早くから住民の立ち退きを求め、多くは移転しましたが、同様の場所に移転できたのは20軒ほどです。結局移転した場所は工事が遅れてずっと空き地のままになっており、移転住民からはあんなに早く移転させられたことに不満が出ています。飯田市も「反省はしているが、工事の遅れについてJR 東海の説明を待つ」という無責任な姿勢です。工事進捗に関しては、JR 東海の責任が第一に問われますが、JR 東海に協力しつつ傍観している自治体の責任も重大です。メディアの取材や報道にも問題があります。どこかがリニア工事に真摯に対応していれば、今日のように混迷することは無かったでしょう。

# 本ネトンエルの掘削が進む川崎市内の大深度工事、影響があればすぐに連絡を～

報告 東京・神奈川連絡会共同代表 天野捷一

現在首都圏で行われているリニアの大深度トンネル工事ですが、東京の北品川工区では調査掘進が終了し、現在JR東海が「オープンハウス型」説明会を準備中です。町田市の小野路工区では酸欠気泡の発生などが影響し3月19日以降、調査掘進は中断しています。

川崎の梶ヶ谷工区では、3月31日現在非常口から犬藏非常口に向けて1.6キロまで本トンネルが掘られ、東百合ヶ丘工区では非常口から544mまで本トンネルが出来ています。いずれも気泡シールド工法が導入されており、小野路同様酸欠気泡が地上に出てくる可能性があります。

いずれも住宅地の真下を掘っていますので、一度異常が発生すれば重大です。

JR東海はマスコミの取材を最も嫌っており、住民から問い合わせなどがあっても個人的に解消しようとします。小野路の酸欠気泡発生があれだけの社会的事件となったのは、当事者の方がリニア町田の会に連絡し、会がすぐに調査し情報をマスコミに連絡したからです。一人でJR東海に対応するのは無理です。自治会や私ども市民団体に連絡をし、地域の問題として対応することをお願いします。連絡していただいた方の個人情報は必ず守ります。

## ＜集会参加者の質問や意見と樋田さんの見解＞

**リニア町田の会の報告：**小野路の気泡発生についてJR東海は大深度トンネル工事が原因であると認めましたが、住民にその科学的、具体的な説明をしていません。発生場所はリニアルートから40以上離れたところであり、家屋調査の範囲を広げるのは当然です。また、シールドマシンの実際の位置について、神奈川東工事事務所は定期的に明らかにしており、住民の問い合わせにもきちんと位置を教えてくれます。東京工事事務所は「川崎はトンネルの本工事なので知らせてはいる。小野路工区は調査掘進なので定期的に位置情報を明らかにしていない。こちらも本工事になれば教える」などと訳の分からない回答をしています。

**質問：**JR東海の経営状況をどう見るのか。

**樋田：**品川・名古屋間の建設費は約7兆円、今は財政投融資3兆円で建設をしています。4兆円という内部留保には手をつけていません。資材費・人件費が高騰しており、建設費は予定の倍ぐらいかかる可能性もあります。自前で建設費をまかなうことは無理ではないでしょうか。JR東海の経営は次第に苦しくなるでしょう。私は名古屋・大阪間の開業は無理と思います。

**意見：**私どもはJR東海を応援しなければならない。リニアを止めれば将来の経営も上向くということです。

**質問：**リニアルート上の不動産価値が下がっていると聞きますがどうなんでしょう。

**樋田：**不動産取引協会の説明では、不動産取引でルート下にリニアのトンネルがあるということを買い手に重要説明事項として示す必要はないという判断が示されている。しかし不動産業者によってはリニアトンネルがあることを説明している。そうしないと裁判になった場合負けるおそれがあるというのです。田園調布の土地取引でリニアルート上の不動産が時価よりも安く取引されたという話があります。JR東海は「地価はその時々の社会状況によるものであり、リニアが原因で地価が下がるというのは風評に過ぎない」と言っている。

**意見：**昨年の相模原のイベントにリニアブースがありまして、そこにいたJR東海の若い社員が「工事をやってゼロ回答はできない」と言って、将来部分開業もありうると話していました。

**樋田：**初めてそういう話を聞きました。以前、天野さんらが品川駅近くでリニア見直しのチラシをJR東海社員向けに配っていた時に、「リニアは必要ありませんよね」と話す人もいたと聞きました。それと共に通する発言ですよね。

**意見**：リニアを止めないと日本はダメになる。新幹線の4～5倍の電力を使うというが、それだけの大電力を生み出す余裕はない。JR東海の社長自体がリニアは儲からないと言っていましたね。建設残土の処理もめちゃくちゃですよ。空き地に盛り上げたら集中豪雨で大災害が起きます。こんな事業は直ちにやめるべきです。

**意見**：相模原市西橋本で川崎市に水を供給する導水隧道（直径3.5m）のわずか4m上を直径14mのリニアトンネルが横切ることになります。日本トンネル技術協会の規定に触れる接近であり当事者同士の詳細な協議が必要とされています。この件についてJR東海も川崎市もその協議内容や現場のリニア工事について市議会にも市民にも情報を伝えています。大きな問題です。

## リニア大深度訴訟で高木勝己裁判長が、最高裁の判断を待たずに「忌避を簡易却下する」として原告側請求を棄却する判決を強行

東京大田区の住民ら16人が原告となってJR東海に大深度トンネル工事の中止を求めた裁判が3月27日東京地裁で開かれました。この裁判では高木勝己裁判長が法廷でのパワーポイント使用を認めず、また原告側のトンネル土木専門有識者の証人申請を拒否していました。このため原告側は高木裁判長の忌避を再三にわたって地裁に申し立て、2回目の忌避の判断はこれから最高裁から示されることになりました。

ところが、午後3時からの開廷で高木裁判長は「忌避を簡易却下する」とした上で「原告の請求を却下する」と判決を読み上げ、傍聴席の抗議の声の中を逃げるように退席しました。



「判決強行」後開かれた報告集会で、原告側代理人の梶原弁護士は「『簡易却下』というのは、裁判を長引かせるのを防ぐため裁判長が結審することができるという刑事訴訟法の規定であり、民事訴訟法ではそのような規定はない。明らかに不法な行為である。私たちの忌避申請が最高裁に上がっており、その判断を待っている状態で勝手に結審・判決を行うのは司法上の手続きを逸脱している」と指摘しました。

「判決強行」を受けて、原告側は判決を受け取る気はないが、訴訟手続き上二週間以内に上訴しなければならないので、近く控訴する意向を明らかにしました。（写真は原告側弁護団）

## 東日本大震災から14年、今年も原発ゼロカウントダウン in かわさき集会開催、東京・神奈川連絡会もステージでリニア工事中止をアピール

東日本大震災・福島第一原発事故から14年経過した3月23日、原発ゼロカウントダウン in かわさきの集会が中原区の中原平和公園で開かれ、約800人が参加しました。

集会では初めに能登半島地震で被災した石川県珠洲市の北野進さんが市民の力で珠洲原発を阻止した闘いについて報告しました。東京・神奈川連絡会もこの集会に参加し、ブースを設置し、リニア新幹線川崎市内の工事について問



ここが問題！リニア新幹線ニュース N0.116

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一（中原・高津） 090-3910-8173

山本太三雄（宮前） 090-8775-1879

矢沢美也（麻生・多摩） 090-6108-6568

題点を載せたチラシを配布しました。メイン集会では矢沢美也共同代表がリニア工事中止を強く訴えました。

参加者は午後3時半から武蔵小杉駅までデモ行進を行い、原発を止めようと訴えました。